

紫陽花の色が美しく映える季節になりました。今月号も最新のトピックスをお届けします。

国内動向

① 三酸化ニアンチモンに対する規制の強化(厚生労働省)

厚生労働省は、平成29年6月の特定化学物質障害予防規則・作業環境測定基準等の改正により、三酸化ニアンチモンを特定化学物質(管理第2類物質)に追加し、作業環境測定の実施、発散抑制措置、特殊健康診断の実施等を義務付ける。三酸化ニアンチモンは、国が行う「化学物質による労働者の健康障害防止に係るリスク評価」により、リスクが高く、規制が必要であるとの結論に至ったことによる。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163262.html>

http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11300000-Roudoukijunkyokuanzeneiseibu/gaiyou_Sb203.pdf

② 「化学物質管理セミナー キャラバン 2016」の講演資料の公開(経済産業省)

経済産業省は、「化学物質管理セミナー キャラバン2016 ～化管法に基づくSDS及びラベル作成～」の講演資料を公開した。講演資料と併せて、「化管法に基づくSDS・ラベル作成ガイド」と-GHS対応-化管法・安衛法におけるラベル表示・SDS提供制度(平成28年12月版)が配付資料として公開された。

http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/law/information/seminar2016/caravan2016_SDS.pdf

【配付資料】

http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/files/PRTRSDSLAW_SDSguidance2016re.pdf

http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/law/information/seminar2016/GHSamphlet201612.pdf

③ OECD 毒性試験ガイドライン翻訳版の掲載(国立医薬品食品研究所)

国立医薬品食品衛生研究所は、以下3件のOECD毒性試験ガイドライン翻訳版を掲載した。

- ・TG442E: *in vitro* 皮膚感作性: ヒト細胞株活性化試験(h-CLAT)(2016.7.29 採択)
- ・TG491: i) 眼に対する重篤な損傷性を引き起こす化学品、および ii) 眼刺激性または眼に対する重篤な損傷性に分類する必要のない化学品を同定するための、*in vitro* 短時間曝露法(2015.7.28 採択)
- ・TG493: エストロゲン受容体(ER)結合親和性化学物質の検出のための、ヒト組み換えエストロゲン受容体(hrER) *in vitro* 試験法に関する性能基準準拠試験法ガイドライン(2015.7.28 採択)

<http://www.nihs.go.jp/hse/chem-info/occdindex.html>

海外動向

① インフォカード及びブリーフプロファイルによる化学物質の有害性情報の明確化を推進(欧州化学品庁(ECHA))

ECHAは、5月17日、化学物質のポータルサイト(Information on Chemicals)を更新した。今回の更新により、インフォカード及びブリーフプロファイル上で化学物質のより詳細な有害性情報や分類情報が利用でき、12万物質以上の公表データの透明性が向上したとしている。

<https://www.echa.europa.eu/-/more-clarity-on-hazard-information-of-chemicals>

<https://www.echa.europa.eu/information-on-chemicals>

<https://www.echa.europa.eu/-/data-on-15-000-chemicals-now-available-to-use>

② 玩具中のフェノールの制限値を改正(欧州委員会)

欧州委員会は、玩具の安全に関する欧州議会並びに欧州理事会指令2009/48/EC、Appendix Cに記載された玩具中のフェノール(CAS 108-95-2)の制限値(specific limit values)を改正する委員会指令(EU) 2017/774を公布した。今回の改正は遅くとも2018年11月4日までに施行される予定である。

<http://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/PDF/?uri=CELEX:32017L0774&from=EN>



特集：化学物質リスク評価における混合物の取扱いについて①

今月号から数回に分けて、化学物質リスク評価における混合物の取扱いについて解説します。現在の化学物質のリスク評価は、単一の化学物質の評価に基づいています。しかし、実際には、人も生態系も同時に多数の化学物質にばく露されています。人は、大気、飲み水、食物を通して多数の化学物質を体内に取り込み、更には家庭や職場で使う化学製品からも化学物質にばく露されます。いわゆる、「化学物質のカクテル」によるばく露によって、単一の化学物質のリスク評価では予期しない健康影響が生じるのではないかといった不安の声があります。

化学物質リスク評価の分野では、混合物の取扱いと評価方法は、重要なテーマです。現在のところ、世界的に統一した混合物の取扱いと評価方法はありませんが、10年ほど前から、WHO、欧米を中心に、様々な評価方法が提案されているところです。

複数の化学物質へのばく露、いわゆる混合物ばく露又は複合ばく露は、何十年にもわたり、議論、研究、規制の対象となってきましたが、その間、用語が混乱して使われてきたようです。そこで、今後、話を進めていくために、ここでは、以下の通り、WHO が提示した最も一般的な定義を用います。

混合物ばく露 → 1つの発生源から生じる複数の化学物質にばく露されること

複合ばく露 → 複数の発生源から生じる複数の化学物質に1つ以上の経路でばく露されること

次回は、混合物中の化学物質間の相互作用について解説します。

お知らせ

○セミナー「インシリコによる化学物質の毒性評価」

6月28日(水)に技術情報協会(東京都品川区)において開催されるセミナーで本機構の林職員が講師を務めます。

http://www.gijutu.co.jp/doc/s_706209.htm

○セミナー「これから対応する企業のための ICH M7 変異原性不純物対応とガイドライン徹底解説」

6月29日(木)にきゅりあん(東京都品川区)において開催されるセミナーで本機構の菊野職員及び林職員が講師を務めます。

<http://www.science-t.com/st/cont/id/26795>

○セミナー「CLP 規則の徹底理解と 830 書式対応 SDS の作成」

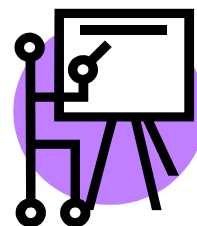
7月7日(金)に江東区産業会館(東京都江東区)において開催されるセミナーで本機構の吉川職員が講師を務めます。割引制度がありますので参加ご希望の方は本機構までご連絡ください。

http://www.johokiko.co.jp/seminar_medical/AA170759.php

○化学物質管理ミーティング 2017 への出展

8月24日(木)、25日(金)開催の化学物質管理ミーティングで、化審法申請トータルサポート、化学物質管理教育支援、GHS 分類/SDS 作成、製品等の分析・リスク評価の展示を行います。また、出展者セミナーの他、ブースにて、化審法等各種法規制の最新動向を踏まえた【ミニセミナー】を行います。ぜひご来場ください。

<http://www.cdsympo.com/cm2017/>



ご質問等ございましたら、以下の連絡先にお気軽にお問い合わせください。

CERI

一般財団法人 化学物質評価研究機構

Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル 7F

安全性評価技術研究所 研究第二部

Tel: 03-5804-6136 (担当者: 石井(聡)、菊野、林)

URL: <http://www.cerij.or.jp> E-mail: cac-reach@ceri.jp